

秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科は、今年度のアニュアル・シンポジウム『複合芸術会議2021 (vol.1およびvol.2)』をオンラインで開催します。

「複合芸術会議」は、本研究科の研究や教育、活動を紹介するとともに、創造領域の最前線で活躍されている国内外のゲストを交え、「複合芸術」の可能性を現代社会の多様な視座から模索することを目的とする公開型のシンポジウムです。「複合芸術」の概念が拓く創造領域の未来とはどのようなものか、そして「複合芸術」の実践は人と社会、地域と世界をどのように接続し直すのかなど、様々な視点とスケールから新しい問いを立て回答を試みます。

秋田公立美術大学  
AKITA UNIVERSITY OF ART



秋田公立美術大学大学院

オンライン特別企画

## 複合芸術会議 2021 vol.1

# 『危機とアート』

1月29日(金) 18:00 - 20:40

in Zoom 聴講無料 ※要申込

『複合芸術会議2021 vol.1』は、約1年に及ぶコロナ禍の経験を得た私たちが危機の中でも生き残り未来を目指すための知や実践のあり方について、アートディレクターであり本学客員教授の芹沢高志先生より講義を頂く第一部「危機、アート、ヴィジョンの力」※、そして、芹沢先生に加えてバンクーバー在住のアートキュレーターである原万希子、本学教員の岩井成昭と石倉敏明の登壇のもと、第一部の講義を手がかりに様々な現場でのアートの公共実践の可能性と課題についてディスカッションをおこなう第二部「危機の時代と複合芸術」により構成されます。

※新型コロナウイルス感染症パンデミックという未曾有の事態。しかし、危機に直面してこそ、今まで見えていなかった、あるいは見ようとしてこなかったさまざまなことが見えてくる。そんな時、アートの意味とはなんなのだろう？311から10年が経とうとしている今、アートの持つ力についてあらためて考えていきたい。(芹沢高志)

聴講をご希望の方は下記のフォームからお申し込みください



<https://forms.gle/W8JHztBAJQQebnui7>

左のQRコードからもアクセスできます

申込〆切 1月28日(木)

### ■ゲストプロフィール



せりざわ たかし  
芹沢 高志

秋田公立美術大学客員教授/  
アートディレクター

1951年東京生まれ。89年にP3 art and environmentを開設。99年までは東長寺境内地下の講堂をベースに、その後は場所を特定せずに、さまざまなアート、環境関係のプロジェクトを展開している。とち国際現代アート展「デメーテル」総合ディレクター(02年)、アサヒ・アート・フェスティバル事務局長(03年~16年)、横浜トリエンナーレ2005キュレーター、別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」総合ディレクター(09年、12年、15年)、さいたまトリエンナーレ2016ディレクター、デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)センター長(12年~)などを務める。



はら まきこ  
原 万希子

秋田公立美術大学オクトーバースクール  
ワークショップアドバイザー/キュレーター

東京生まれ、バンクーバー在住。コンテンポラリーアート・キュレーター、講演者、研究者、アートインキュベーター。2007年カナダに移住し2013年まで、センターA(バンクーバー国際現代アジア美術センター)のチーフ・キュレーター兼副ディレクターを務めた。2014年に「黄金町バザール-Fictive Community Asia」(横浜市)のゲストキュレーターを務めて以来、アートを通じて太平洋を越えた対話と交流の場の創出を目指して活動を行っている。2017年より2020年まで秋田公立美術大学、国際交流センターのディレクションアドバイザーを務め、2018年よりオクトーバー・スクール参加を担当。2020年のコロナ禍を機に自身のアパートのキッチンに「私の台所文化人類学博物館」を開館し、同ミュージアムのCEO兼エグゼクティブ・ディレクターに就任。